

ふじさわ・九条の会ニュース



No.70

発行人 ふじさわ・九条の会事務局長 吉塚晴夫 090-7949-9854

HP(ホームページ) <https://fujisawa9jo.org>

検索「ふじさわ・九条の会」でも開けます。



岸田政権の正体

・アベ政治の忠実な継承

岸田政権の正体はアベ政治の忠実な継承である。自民党総裁選で岸田が強調していた「新しい資本主義、成長と分配の好循環」というスローガンは、政権発足後に「分配」の言葉が消えて、アベノミクスの引き写しと化した。超低金利を続けて円安を放置し、物価高騰に無能無策の日銀黒田を温存している。

・一層の対米従属の深まり

沖縄や神奈川厚木、横須賀など米軍基地から化学汚染物質のPFOS、PFOAの流出事件が発生して、米軍はその処理水を公共下水や河川に勝手に垂れ流していた。県がようやく厚木基地に立ち入ることができたが、発生した設備は調査できなかったということである。政府防衛省は例によって地位協定の改定には一指も触れようとしないままである。

また従来150m以上の高度で行うとされていたオスプレイの訓練が、新たに90m以上という低空での訓練実施を日米合同委員会で合意した。実施場所は住宅地を避けて山岳部とされているが、米軍はやりたい放題にやるだろう。今までも今もそうなのだから。対米従属というより米軍への従属が一層深まっている。岸田政権はバイデンに「相当な防衛費の増額」を約束させられた。それは米軍事産業の高額武器を購入するということなのだが、軍事費倍増に血道を上げ、イラク、シリアでの戦争に使われた巡航ミサイルトマホークの購入要請までしている。専守防衛は跡形もなく消え去ってしまった。トマホークは有償軍事援助という形で、米軍言いなりに高額で買わされることになるだろう。

・旧統一教会の自民党への浸透と癒着

安倍元首相の衝撃的な死から、旧統一教会が長い時間をかけて、如何に計画的に自民党に浸透し、その世界戦略実現に向けて影響力を行使してきたか。選挙時の実質的な政策協定である推薦確認書のやり取り、選挙応援への動員など次々と明らかになりつつある。自民の世耕参院幹事長は「このレベルは普通のことだ」と放言しているが、旧統一教会は洗脳によって、日本国民の家庭から財産を巻き上げ、家庭を崩壊に追い込み、宗教二世の人権と生存を蹂躪

している反社会的な団体である。米軍への従属もさりながら統一教会との癒着を見ると、いったい日本の政治とは何なのか、日本という国は何のためにあるのか、と思わざるを得ない。

・アベノ<国葬>の強行

岸田首相は安倍元首相を「国葬」で弔うとの決定を法的根拠なく、閣議決定だけで決めた。将にアベ政治の踏襲である。その国葬なる行事は、軍事的色彩を前面に出したものであった。自衛隊儀仗隊の活動、弔砲、「国の鎮め、悠遠なれ皇御国」という曲の演奏は、将に旧軍の軍楽隊演奏を彷彿とさせた。

・岸田首相は原発の新設、再稼働の推進、運転期限40年の撤廃など突如として原発推進に舵を切った。ウクライナでの戦争を理由としているが、火事場泥棒のような政策である。福島原発事故の終息が全く見通せない中で、正気の沙汰ではない。

・また政権はコロナに対しても殆ど何もしなかった。第7波にろくな対策を打たず、自宅療養と自己検査を進め、コロナ感染対応も自己責任としてきた。冬に向けて第8波の不安を前にしてGo to travelの再開、入国制限の撤廃を行って変異株への対応を脆弱にしているようだ。本来今こそ地域医療体制を充実すべきなのに、発熱外来の受診を抑制し、自己検査と自宅療養を推進している。

・そして24年度に保険証を廃止して、マイナンバーカードに一体化することを突然に打ち出した。任意であるカード取得を強制するという愚策である。

・統一教会癒着の典型のような山際大臣(神奈川県選出)を更迭したが、差別主義者であることを公言している杉田水脈(LGBTは生産性がない)を総務政務官に付け、築和夫(生物学上、種の保存に背く)を文科副大臣に任命した。この二人は一体何をたくて、何のために議員になったのか全く理解できないが、岸田首相が明らかな差別主義者を登用しているということである。

私たちの暮らしは益々追い詰められていく。だからこそあらゆる戦争に反対し、平和を求める私たちは抗議の声を上げることを続けていく。(吉塚晴夫)

9・23 ふじさわ・九条の会 秋の学習会

憲法九条と平和外交 講師：布施 祐仁さん

〈寄せられた感想から〉

日本は、安保でアメリカの戦争に巻き込まれるべきでない

9月23日、藤沢市民会館でふじさわ・九条の会の秋の学習会が開催された。講師は平和問題が専門のフリージャーナリスト布施祐仁氏。テーマは「憲法九条と平和外交」というもの。布施氏の講演で注目されたのは、ウクライナ侵攻以降、日本の国内世論調査でも、防衛費を増やすべきだ、ある程度増やすべきだとの声がかまっているが、力対力の対決では平和は守れない、平和外交を推進することが大切だということが強調された点である。

そして、台湾有事にむけて、日米共同行動、防衛費増強、敵基地攻撃等が論議されているが、有事法制の下では、アメリカが対中戦争を起こせば日本も協力させられ、米軍基地のある日本全土が戦争に巻き込まれることは必至となる。安保条約の危険性について、事実立脚した国民的論議がもっと必要だと述べられた点も注目された点である。同時に、布施氏は、7月30日に実施された日本世論調査会のアンケートでは、「軍拡よりも平和外交を」の声が大きいことも指摘された。氏の講演を聴いて、こうした世論に依拠し、安保ではなく、我々の運動を大きく発展させなければならないことを痛感した学習会であった。（小林 麻須男）



ロシアのウクライナ侵略をはじめ、北朝鮮のミサイル、台湾問題など、昨今日本を取り巻く安全保障情勢を見ると、戦争への不安を掻き立てる事案ばかりです。政府もここぞとばかりに軍事費を大幅に増やし、敵基地攻撃能力を保有しようとしています。そんな中でのタイムリーな講演で、様々な資料やデータで中国やアメリカの今現在の戦略を明らかにし、本来日本の取るべき道に確信を与えてくれました。軍備が戦争の抑止力にならず、果てしない軍拡競争を招き、むしろ軍事的緊張を高め、戦争のリスクを増大させるだけであること、戦争を防ぐためには緊張緩和と信頼が重要で、そのためにはASEANのように対話と協力を進める外交が必要であること。「力には力」での論理では平和は作れない、平和外交こそが戦争を防ぐ唯一の方法である。日本には憲法9条という素晴らしい宝がある。そのことに自信をもって訴えていくことの重要性を今更ながら納得いたしました。軍拡や憲法改正を叫び、それにすり寄る勢力にひるむことなく、今こそ9条を守り生かすことを、心ある人々とともに推し進めていきましょう。

若き講師のこれからの活躍を大いに期待した講演会でもありました。（田島祥子）



ロシアがウクライナに侵略をしてから「力対力ではなく憲法九条を活かした外交を」のプラカードを掲げた私たちに「中国、北朝鮮なんかに通じると思っているのかよ」とやじる人が目立って感じられてもやもや感じっぱいでした。若い布施さんはASEANに焦点をあててすっきりと解明。ベトナム戦争を経て東南アジア諸国は「紛争はあって当然、戦争にしないための努力が大切」と。対中国との領土問題でも、粘り強い交渉で表面では譲歩しても実を取りさらに仲間に引き入れた話は圧巻でした。さらに布施さんは「日本はアメリカに守られていると思っている人はいますか」となげかけられた。「台湾有事」と煽り立てて、日米軍事一体訓練が行われ沖縄の基地にはミサイルが配備され中国との間に緊張状態を作り出していることの本題に話は展開。ASEANに学び東アジアでも友好条約を結ぶ糸口を見つける外交努力が平和憲法を持つ日本の取る道ですと結ばれた。心から共感の拍手を送りました。（吉鶴美智子）

布施祐仁氏(フリージャーナリスト)から岸田内閣の「大軍拡と9条改憲」の危険な狙いについて詳しく報告がありました。岸田首相はウクライナ危機を強調して日本の防衛力を抜本的に強化し、日米同盟を一層強化することを狙っていると指摘されました。ロシアによるウクライナ侵略や北朝鮮のミサイル発射などで国民の危機感をあおっているが、本当の狙いは対中国です。台湾有事を想定して自衛隊と米軍が共同作戦計画を策定している事実も明らかになっていると指摘されました。大事なことは「力には力」の論理では平和は創れない、平和外交こそが戦争を防ぐ唯一の方法です。そのことを自信をもって訴えていくことが重要。9条を変えている場合ではない。今こそ活かす時！と強調されました。岸田内閣の軍備増強や憲法9条を改悪して「戦争する国」づくりを許すわけにはいきません。9条に基づく外交こそが平和を守る力です。「軍拡より平和外交を」と訴え、憲法改悪に反対する活動を強めていくことが大事だと改めて思いました。(品川邦之)



届けよう市民の声を

みなさんは、藤沢市民会館や旧南市民図書館が建て替えられることをご存じでしょうか？

藤沢市では、1968年に開設された藤沢市民会館と旧南市民図書館、奥田公園の文化ゾーンを、新たに10施設を複合化した生活文化拠点として再整備する計画を進めており、いよいよ今年度には「基本計画」が策定され、7年後の供用開始を目指しています。

私たち「藤沢の文化芸術を考える会」は、この施設が文化芸術の拠点として様々な市民の集う公共性の高い場として機能していくことを願っており、今回の再整備事業を基本的に歓迎しています。その上で、基本計画の段階から、機能やメンテナンスを含めて市民や利用者の率直な意見交換を通して次の世代に受け渡せる施設にしていくことが重要だと考えています。50年を経過して再構築される施設が、これからの50年の使用に耐え市民社会の発展に寄与しうるものであって欲しいからです。

藤沢市民会館等再整備基本構想案の理念では、文化芸術の拠点機能が最優先に示されています。文化芸術は、豊かな人間社会をつくり子どもや青少年の成長を育む上で不可欠です。また現代は、貧困や格差による世代を超えた「孤立化」が進み、人のつながりによるコミュニティの再生が持続的な社会発展にとっても不可欠です。私たちは、藤沢市民会館再整備によって構築される施設が、藤沢市の文化芸術の中核的な拠点として、かつ公共性の高い運営によって、未来に向けても市民の財産となるよう、より多くの市民と共に考えていきたいと願っています。

「藤沢の文化芸術を考える会」では、ほぼ一月に1回のペースで定例会を開催し、計画の情報収集をもとに進捗状況を共有したり、文化芸術の役割と可能性について学習したり、その豊かさを実感できるようなイベント(映画会や講演会)を開催しています。とりわけ、現在の計画の中で上がっている論点を別紙のように整理して広報し市民の関心を喚起しています。

私たちは、こうした活動に込めた願いに賛同する市民の輪を広げたいと考えています。下記にご連絡をいただければ定例会案内などの情報を提供させていただきます。(演劇鑑賞会 黒川)

藤沢の文化芸術を考える会

〒251-0055 藤沢市南藤沢8-1 日の出ビルA203 NPO法人藤沢演劇鑑賞会内

TEL/0466-24-1747 Mail/fujisawaenkan@icloud.com

[沖縄報告]那覇市長候補35歳と野党共闘は、追いつかず！ 久保博夫

城間市長の自公候補支持の中、翁長候補らは惜敗しました！

先に行われた豊見城市長選は勝てる可能性はほぼなかった。前回は自公側が分裂、今回はオール沖縄の現職にパワハラ報道もされ、デニー知事が予想以上に勝ったのが、唯一の期待でした。自公の一本化は強いです！

那覇市長選は告示直前に城間市長が元副市長の知念氏に強く要請され、16日の発表を12日に早めて(選挙ポスターを二人の写真に出来た!)発表された。告示直前に市長選に出たいと言っていた参政党候補が中央の指示で、又下地幹夫後援会が自公候補の支援を発表した。参政党には菅元首相が、下地には翁長県政時の副知事だった安慶田がかかわったと言われています! ?そのため2万票以上離されるところが、1万票差までオール沖縄らが頑張ったと言えます。最終日の立憲政党らの応援のあった、県庁前の熱気は勝てるのではないかと思います。

10月25日の沖縄タイムスの記事「・・9月の県知事選で下地氏的那覇市での得票数は約1万6千票。保守層に浸透する参政党が候補者を立てた場合「3千～5千票が流れた可能性もあった」(選対幹部)・・」の分析が良いと思います。翁長那覇市長時代の秘書だった知念氏に翁長後援会の半分近くが付いたと言っています! ?

知事選は、元維新の下地候補が降りなかったのが大きいです。県議の補選でオール沖縄が勝ち、議会の与党多数は守られました(私の応援はこちらが主でした!)。

県の権限は大きく、140万県民に大きな影響が! 宮古&石垣島の基地建設を阻み、自衛隊と米海兵隊の一体化をさせず、台湾有事には沖縄を戦場にさせない事が大事です! ? 今後は地道な反基地行動の継続が、大事になります! コロナが安全になってきた、沖縄に行きましょう! 私は年末年始に3週間くらい行く予定です。

辺野古の埋立に、沖縄戦の人骨が混じる南部の土を使うな!

異常づくめの「国葬」強行

(島田啓子)

安倍元首相が凶弾に倒れてから程ない7月12日、岸田首相が国葬実施を発表するとすぐに反対、中止を求める声が同時多発的に発生し、22日の閣議決定直前の官邸前緊急抗議行動(400名参加)を皮切りに8月6日には45(最終的には86)の市民団体により「安倍元首相の国葬に反対する実行委員会」が結成され、ふじさわ・九条の会も参加しました。反対の声は全国に燎原の火のように広がり、各地、各分野で様々な行動、自治体への要請、声明発表等が行われました。

岸田首相が弔問外交を企図したことに対しては憲法学者を中心に国内の外国公館などに反対声明を送付したことが、政府の狙いに反して多くの外国の要人が参加を中止したことに繋がったと思われま

9月27日に武道館で行われた国葬では自衛隊の音楽隊による「君が代」、戦前の軍歌「国の鎮め」、天皇礼賛の「悠遠なる皇御国」などが演奏されました。また遺骨は国会議事堂ではなく防衛省の正門前を通過し、会場に到着した際には自衛隊による「号砲」が発射され、会場には自衛隊員千数百人が参列するなど自衛隊の突出した参加に多くの市民は違和感を覚えたのではないのでしょうか

このように手続きだけでなくその内容まで異常づくめだった国葬。岸田首相は国葬実施の理由を安倍元首相の在任期間が憲政史上最長だったこと、内政・外交で実績があったことだと繰り返し述べ、「暴力に屈せず、民主主義を断固として守り抜くという決意をしまります」と強調しましたが、私たちは安倍首相こそが民主主義の破壊者であり、政治の私物化により多くの国民を苦しめ、分断へと導いた政治家として許すことができず、国葬に怒りの声を上げたのです。

国葬と同時に開催された国会前での反対行動には15,000人が集まり、実行委員会のまとめによると26日、27日両日で北海道から沖縄まで250箇所を超える行動に30,000人超が参加したとのこと。広く深く大きく広がった国葬反対運動を軍事拡大、改憲へひた走る岸田政権に対抗する市民運動再構築につなげたいと思います。





安倍元首相「国葬」反対！の世論と運動が高まる中の9月4日、6団体（九条の会、年金者組合、新婦人、藤沢革新懇、婦人民主クラブ、湘南労連）が集まり9月27日、「集会とアピールウォーク」を藤沢駅前サンパール広場で実施することを決め、呼びかけチラシ作成などで動き出しました。

安倍元首相の国葬が実施された9月27日、藤沢駅前サンパール広場には80人を超える団体や市民が集まり、交替で発言し、その間「国葬反対」「国葬は憲法違反」などのプラカードを掲げアピールしました。

参加した人は、「ここだけは参加したかった」「安倍元首相に関する疑惑は解明されておらず、世論も反対が大勢。」「国の将来が不安。到底納得できない」などと疑問や不安を口にしました。

集会前に、藤沢市秘書課を訪ね、藤沢市は「何故半旗掲揚か」を問い、市の担当者の「市長の判断、国葬ということ」の回答を集会で報告しました。

集会後、市役所まで「国葬反対」などのプラカードを掲げアピールウォーク。沢山の市民が注目しました。

「国葬」は強行されましたが、市民の怒りや疑問は、なくなることはありません。全国に広がった草の根の行動を力に、市民と野党の共闘を再構築して、憲法や民主主義を踏みにじる岸田政権を倒すたかひにつなげましょう。みんなで声をあげ続けましょう。

神奈川新聞とタウンニュースからの取材がありました。 (K・T)

(写真協力・提供 上浦さん)



お知らせ

「ふじさわ・九条の会」のメンバーが紙面を飾る

『戦後77年 戦禍の記憶』と題するシリーズがミニコミ紙のタウンニュースに4回にわたって掲載されました。初回の8月9日は「家族奪ったサイパン戦」と題して崎山稔さん、26日は「虚無感の果て『何もない』」で保坂治男さん、9月2日は「戦争は人間性を奪う」で川崎典子さん、最終回9月9日は「子どもすら巻き込まれ」で坂本敏江さんが取り上げられました。

4人とも「ふじさわ・九条の会」のメンバーです。「タウンニュース藤沢版 個々のお名前」で検索するとその記事が出てきます。ぜひご覧ください。

1)大庭在住 崎山稔さん(82)「死体の感触 今も忘れず」

家族奪ったサイパン戦 8月9日号

<https://www.townnews.co.jp/0601/2022/08/19/638445.html>



2)高倉在住 保坂治男さん(91) 東京大空襲、辛い記憶今も

虚無感の果て「何もない」 8月26日号

<https://www.townnews.co.jp/0601/2022/08/26/639417.html>

3)鵜沼藤が谷在住 川崎典子さん(94) 目の前の死にも無感情に

「戦争は人間性を奪う」 9月2日号

<https://www.townnews.co.jp/0601/2022/09/02/640447.html>



4)辻堂西海岸在住 坂本敏江さん(86)「加担あつてはならぬ」

子どもすら巻き込まれ 9月9日号

<https://www.townnews.co.jp/0601/2022/09/09/641548.html>

(写真はタウンニュースHPから)

「憲法九条の碑」の建立を呼びかけます

かつてなく「憲法九条」の存立が危うくなっています。改憲を許さない闘いとともに世界平和の羅針盤としての九条を永久に遺すために九条の碑を建てようではありませんか。日本には沖縄の4基はじめ全国で24基建設されています。

私たちの街 藤沢にもみなさんの力を集めてぜひ建立しましょう。(同封のチラシ参照)第1回目の相談会を11月23日(水・休)10:30～エコストアパパラギにて開催します。

エコストアパパラギ(ECO Store PAPALAGI)

藤沢市鵜沼石上1-3-6 TEL:0466-50-0117

<https://ecostorepapalagi.com>

11月30日(水)は県民ホールに集まろう

タイムリーなテーマで

タイムリーな講師による講演会

いま 戦争と憲法に向き合う

神奈川県民ホール

11月30(水) 開演 18時30分



ごあいさつ
山崎洋子さん 作家



田中 優子さん

「改憲発議と自民党憲法改正案」

日本の江戸文学・江戸文化研究者、エッセイスト、法政大学第19代総長、九条の会世話人。週刊金曜日編集委員



金平 茂紀さん

「ウクライナ・憲法・メディア」

TVキャスター、報道記者。1994年に『筑紫哲也 NEWS23』の編集長に就任し、筑紫哲也の「右腕」として活躍。2010年から22年9月まで『報道特集』のメインキャスター。